

私と篠山

ひろし 岡原浩さん、みつお 岡本光夫さん



▲左から 岡原浩さん、岡本光夫さん

▲アケボノツツジの苗木

篠山は我がふるさとであり、生きている証

岡原浩さんは、福祉施設で仕事する傍ら、週末は篠山クラブOBとして、篠山学習館の管理人を務めます。館内には篠山に生息する動植物の写真やはく製、文献などの資料が所蔵されており、時には来館者へ説明をすることもあるそう。今ではドライブの休憩地として使われることが多い篠山学習館ですが、敷地内の草木の手入れをしていると、来訪者から労いの言葉をもらいます。「大変だけど、声を掛けてもらえると嬉しいね」と語る岡原さん。今後も「地元に愛される篠山の文化を残していきたい」と情熱を覗かせました。

岡本光夫さんは篠山全体の管理人で、篠山クラブ員の時から含めると30年以上篠山に携わっています。篠山クラブが篠山の保全を始めたきっかけを聞くと、活動を通じて地域の活性化を図るためと話します。「昔は会費制で、それを活用して維持管理をしていた。クラブに入った理由は先輩に誘われたから。先輩に言われたら断れないもんだよ」と昔を懐かしむようにはにかんだ表情を浮かべます。月5日から10日程度、篠山へ登る歩道の整備をするほか、環境省や宿毛市、宇和島市と連携しアケボノツツジの母樹や稚樹のモニタリングのほか、防護ネットの補修など保全とパトロールをしています。「体力的に厳しいと思うときもあるが、アケボノツツジを大切に守っていききたい」と今後も活動を続けていく意欲を見せました。

篠山・・・

足摺宇和海国立公園に指定されている篠山はミヤコザサやアケボノツツジなどが群生しています。近年、笹が減少したことで山肌が露出し、風雨により地面の土が流出、その結果アケボノツツジの母樹の衰退、また稚樹が育たないなどの問題に直面しています。笹の減少はシカによる食害が原因として考えられたことから、環境省、行政、地元保護団体である篠山クラブが中心となり、アケボノツツジが群生する山頂付近を防護ネットで囲う等、人や動物の往来を制限しての保全活動が続けられています。

編集後記

私と〇〇で篠山の管理人さんたちを取材しました。以前、商工観光課に所属していた際、私も保全活動やモニタリングに参加し、アケボノツツジの新芽の数やサイズを計測、成長状態を調査しました。発芽数は少なくないものの、大きくなるには一苦労のようで、前回調査時から消失する個体がほとんどでした。取材をとおしてお二人の言葉から篠山への愛を感じるとともに、貴重なアケボノツツジを後世に引き継いでいきたいと強く思いました。 H

広報担当として4月1日の辞令交付式にカメラを持って入るのも、今年で4回目になりました。この取材に入るたび自身の入庁時を思い出すのですが、まさにその日は『令和』という新元号が発表された日でもありました。

辞令交付式や入学式など、節目の行事を取材するたび気が引き締まると言いつつ、この時期はつつい頭の中が田植えモードになるのが私の悪いクセ。常に広報全集中で今年度も走り抜けたと思います。 M

編集・発行

愛南町役場 総務課 〒798-4196 愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲 2420 番地 電話：(0895)72-1211 FAX：(0895)72-1214

愛南町の世帯数と人口

令和7年4月1日現在

世帯数	9,730世帯 (-44世帯)
人口	18,337人 (-146人)
男	8,697人 (-68人)
女	9,640人 (-78人)

愛南町の高齢化率 47.7%

※ () 内は前月比

●10年前 同月の人口 23,757人